吟香会報

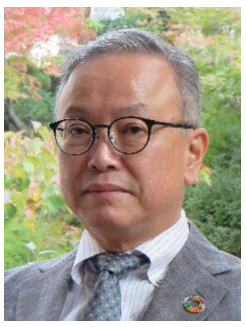
編集・発行

岸田吟香を語り継ぐ会
2023年5月1日

事務局
岡山県美咲町
山本登志夫
090-1015-2367

著作『和英語林集成』がもたらした
目薬の文化大革命

吉備路文学館　館長　明石英嗣



吉備路ゆかりの文学者を文学碑とともに紹介した弊館発刊の『吉備路をめぐる文学のふるさと』で四十五番目に登場するのが―岸田吟香―です。

―慶応三年（一八六七）、洋式な眼薬を「精錡水」と名付けて伝えた―

私も永年目薬のお世話になっていることもあり、また新聞人・実業家であった吟香と眼薬というミスマッチもあり、興味が湧き、弊館の収蔵品リストを調べました。リストの中に『薬史学雑誌』（日本薬史学会・一九八九）がありました。いわゆる学会誌のコピーで、日本薬史学会　天野宏氏による二つの論文「明治初期の薬学界に貢献した岸田吟香」「わが国初の洋式目薬「精錡水」とその時代」が掲載されていました。論文における吟香に関する記載は生い立ちから家族構成に至るまで実に詳細にまとめられていて、私のような岸田吟香初心者にとっては、まさに目からうろこでありました。

また、この二つの論文から私の疑問点であった新聞人と眼薬の接点について、吟香が米国人医師で宣教師ヘップバーン（ヘボン）と患者と医師という関係で出逢ったこと、ヘップバーンは和英辞書編纂に苦労していたところに編集に長けた新聞人の吟香に力を借りれたことが判明しました。

さらに、吟香の著作『和英語林集成』が慶応三年四月に刊行されると、ヘップバーンは吟香の辞書編纂に報い、目薬の調剤方法を伝授し、吟香はその目薬を「精錡水」として販売したとのことでした。論文には―精錡水は草昧期の薬業界に新風を巻き起こした。精錡水はまさに目薬の文化大革命をやってのけた―との記載があります。

岸田吟香生誕一九〇年という節目の年にあたり、文学者（新聞人）としての才能が、今の時代の日常にいかに役立っているかを知るとともに、その偉業に感謝しつつ、文学館として顕彰活動のお手伝いが出来たらと思っております。

明石英嗣（あかしえいじ）略歴

昭和三七年山口県下関生まれ。昭和六一年早稲田大学教育学部卒業後、中国銀行に入行、平成二〇年詫間支店長をはじめ備北ブロック長兼総社支所長など数々の要職を務めた後、平成二七年公益財団法人吉備路文学館常務理事館長として現在に至る。

今年は 生誕190年、節目の年！

●今年は、天保4年（1833）4月、吟香生誕から190年の節目を迎えましたが、私たち語り継ぐ会は、会員の皆様をはじめ全国で岸田吟香を研究されている教授の方や歴史研究家など多くの人に支えられ活動しています。

●今回は、岡山市北区南方にある吉備路文学館の明石英嗣館長に登場していただき、吟香に対する思いを語っていただきました。吉備路とは、岡山県全域（備前・備中・美作）と広島県東部（備後）をいい、当文学館は博物館として、吉備路出身者やゆかりのある文学者の著書・書簡・原稿等を展示、吟香の出版物も収蔵しています。

●津山洋学資料館友の会「友の会通信№14」より、友の会40周年を振り返り投稿された記事です。紹介します。

「研修バス旅行は心の宝」（前段省略）秋は岸田吟香や山田方谷の足跡を訪ねたり、洋学者関係の史跡巡り等をしました。（途中省略）波乱に富み、多様な事業で社会貢献もされた岸田吟香さんが大河ドラマになればと思っています。實平千代子（美咲町宮山）

●今年度の会員を募集中です。共感していただける方、是非応援してください。年額1,000円、遠方の方には「ゆうちょ銀行定額小為替」と言う送金方法もあります。詳しくは、郵便局か当事務局へお問い合わせください。　QRコード☛

生誕一九〇年事業を！
令和五年度総会終る

四月八日、令和五年度定期総会を、旭文化会館（美咲町西川）で行いました。会則により総会は世話人会に代えることとしていますので、ここにその結果を報告します。

一、四年度事業報告

コロナ禍、兵庫県丹波市や播磨町と交流も行い、会としては一応の成果があったと考えます。

①1月 生誕祭（桜植樹・宝寿寺）
②4月 美咲町へ吟香肖像画寄贈式（岸田尚氏）
③10月 コミックGTO藤沢とおる氏（東京）ほか来所（吟香記念館・津山洋学資料館等案内）
④10月 孤児救済「愛育堂」（丹波市）視察（青木氏と交流）
⑤11月 新聞資料研究会播磨大会参加（ジョセフ彦関係者と交流）
⑥11月 吉備路近代文学七人展研修（岡山・吉備路文学館）
⑦5.10.1月 会報発行（3～5号）
⑧随時 ネット掲載

二、四年度歳入歳出決算

・歳入総額　178,310円
前年度繰越金 25,310円
会費 108,000円（特別会員含）
他収入　45,000円（世話人）
・歳出総額　110,901円
会議費　10,444円（お茶代他）
事務費　33,084円（通信料他）
事業費　53,633円（会報発行）
雑費　13,740円（入館料等）
・翌年度繰越額　65,409円
※世話人研修は全額自己負担

三、世話人追加　杉山稔（垰和）

四、五年度事業計画

福武教育文化振興財団（本社岡山市）の助成が決定、会にとって最高の浄財となりました。財団のご厚意を無駄にしないよう会の運営と情報発信の財源として大切に使用します。

①交流（吟香らと日本初の新聞を創刊したヒコの里・播磨町）
②生誕190年記念事業（予定）
・宝寿寺記念祭、善応寺講演会、新聞週間講演会、リーフレット発行、吟香グッズ製作など
③会報発行　三回（第6～8号）

五、五年度歳入歳出予算

・歳入総額　410,409円
前年度繰越金　67,409円
会費　88,000円（86名）
補助金　250,000円（福武教育文化振興財団）
事業会費　5,000円（参加者）
その他収入　0円
・歳出総額　410,409円
会議費　15,000円（お茶代他）
事務費　30,000円（通信料他）
事業費　340,000円（各種事業）
雑費　5,000円（手土産他）
予備費　20,409円

医師ヘボンを紹介した
箕作秋坪生誕地を探る

三月十一日、第十七回世話人会終了後、吟香が眼病に罹り医師ヘボンを紹介した津山藩箕作秋坪（旧姓菊池）の生誕地、備中国砦部（現真庭市）を探った。

突然の訪問でしたが、近くの村上氏に案内していただき、菊池家（秋坪の家族）の史跡や教諭所跡について説明を受け良き研修ができました。

宝寿寺にて生誕190年「語る会」
桜苗木を植樹、講話を聞く！

中垰和に立つ奈良坂山宝寿寺は、5歳のとき大瀬毘から友人くろだくいち（岸田吟香・杉浦正著より）らと通った寺子屋が開かれていた、いわゆる吟香が巨大な夢「大魚は小池に游ばず」を抱く原点となったお寺です。

語り継ぐ会は、吟香の誕生日4月28日（金）にあわせ、青野高陽美咲町長をはじめ地域の方、檀家、愛好者ら30名を招待し、生誕190年を祝う「語る会」を行いました。

桜苗木の植樹後、場所を室内に移し、宝寿寺森定圓敬住職（原田）の法楽、語り継ぐ会副会長・草地浩典氏によるビデオ講話、終わりに、西洋文化をいち早く取り入れ日本の近代化に貢献した吟香を偲びながら有意義なひと時を過ごしました。初めて参加された若い女性も熱心に耳を傾けていましたが、宝寿寺総代の時澤幸生さん（中垰和）は「ネットに載り、最近寺を訪れる人が増えている。高齢者だけの地区も話題が増えありがたい。今後道案内板も考えなければ」と話していました。

岸田劉生やピカソら
近代巨匠絵画展（ご案内）

国の重要文化財「麗子像」で知られる岸田劉生（岸田吟香の四男）らの絵画展があります。愛好家には是非見てもらいたい。

期間：4月22日（土）～6月18日（日）
開館：9：00～17：00、月曜休
場所：瀬戸内市立美術館（瀬戸内市牛窓）
※4月9日付け山陽新聞より抜粋

編集後記

今年度初めて助成を受けることができましたこと、偏に皆様方のご支援ご協力の賜であり深く感謝申し上げます。

会報第六号をお届け致します。皆様の御意見ご感想をお寄せください。また投稿されたい方は是非お願いします。　山本

この会報は、令和5（2023）年度　公益財団法人福武教育文化振興財団の助成金でつくられています。